

## 平成28年度 第1回江別市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録（要点筆記）

日 時：平成28年8月29日（月） 午前10時00分から午前11時30分

場 所：江別市民会館 21号室

出席委員：澤井秀座長、中川雅志座長代理、粕谷堅一郎委員、高木玲子委員、  
龍田昌樹委員、中橋伸郎委員、成田将之委員、吉川邦俊委員、井上智委員、  
本間雅彦委員、佐藤英明委員、（計11名）

オブザーバー：田辺きよみ（石狩振興局地域創生部長）、中野亮二（江別商工会議所）

欠席委員：小松芳幸委員（1名）

事務局：企画政策部北川部長、企画政策部三上次長、政策推進課金子課長、  
政策推進課中島参事、天明屋主査、左川主任

傍聴者：1名

### 会議概要

#### 1 委嘱状交付

#### 2 市長挨拶

#### 3 委員の紹介

#### 4 開会

#### 5 議事（1）

**【地方創生先行型交付金事業の効果検証について、基本目標①「仕事を作り、安心して働けるようにする」について事務局説明】**

##### ○澤井座長

本有識者会議においては、地方創生先行型交付金に係る全27事業について、意見をいただきたい。また、本会議資料にて示されている「KPI」は全部で35項目が設定されているが、「まち・ひと・しごと創生 総合戦略」における「KPI」とは別であり、事業ごとに設定されているものであることを、あらかじめご留意いただきたい。

##### ○中川座長代理

資料1頁のNo.5「働きたい女性のための就職支援事業」について、目標値50人に対して45人の実績値と目標に近い数字が出ているが、対象者に対してどのような支援をして、どのような仕事に就くことができたのか、今後のために確認をしたい。

それともう一点、資料2頁のNo.9「介護人材育成事業」について、こちらも目標値10人に対して8人という成果が出ているが、こちらについても、実際にこの8人に対してどのような支援をして、就職に結びついたのかを確認したい。

### ○事務局

資料1頁のNo.5「働きたい女性のための就職支援事業」の支援内容についてですが、約1カ月間、座学でマナー研修やパソコンの基本操作などを研修で学び、研修終了後、市内企業で約2カ月間、実際に働いていただいている。その後、本人と企業側の希望をマッチングし、お互い希望が合えば就職に至るという流れになっている。なお、代表的な就職先については、コールセンターや小売業、接客業、医療事務となっている。

続いて、資料2頁のNo.9「介護人材育成事業」については、まず、介護職の初任者研修を受けていただき、座学や各施設での実習を実施している。また、研修期間としては約4カ月間となっている。

### ○中川座長代理

了。

### ○粕谷委員

資料2頁のNo.10「高校生地域就職支援事業」において、就職希望の学生に対して職業講話、あるいは面接指導等を実施したとあるが、実績として対象は271名であるが、具体的に学生側からの反応がどのようなものであったかを確認したい。

### ○事務局

資料2頁のNo.10「高校生地域就職支援事業」については、業者への委託にて実施しており、対象となる高校は、江別高校、野幌高校、とわの森三愛高校の3校において就職を希望する生徒を対象としている。研修内容については、講話を聞くほか、面接指導等を実施している。研修終了後に受講生徒に対してのアンケートの資料はないが、担当課から学校の先生へ確認したところ、受講生徒からは好評であったようだ。

### ○粕谷委員

了。

### ○吉川委員

資料2頁のNo.9「介護人材育成事業」についてであるが、私どものお客様から「介護事業所は人材が非常に足りない」という話を聞くことが多い。実際に事業所等が稼働しても入所希望者はいるが介護する人材が不足していることで、希望者が入所できないという実態であり、結果、介護する側も定着せず、入所希望者も諦めざるを得な

いという現象が起こる。本資料には、「事業内容の見直し」と記載があることを鑑み、引き続き、このような点も検討いただきながら、事業を継続していただきたい。

### ○澤井座長

資料2頁のNo.8「市内大学等インターシップ事業」について、この事業はインターシップにより就職に結びつけるというものであり、その点ではNo.10「高校生地域就職支援事業」、No.11「有給インターンシップ等地域就職支援事業」も関連するところである。対象者は大学2年生から3年生が主であると思料するが、昨年度のインターンシップ対象者10人が市役所へのインターシップを実施したことにより、卒業後に江別市役所、あるいは市内企業にどの程度就職できたのか、来年度以降に成果が出ると思われる。10人のうち1人でも2人でも市内に就職したとなれば、KPIとは別の成果として報告できると思うところである。同じくNo.10「高校生地域就職支援事業」、No.11「有給インターンシップ等地域就職支援事業」においても同じように、実際にどの程度江別市内に就職できたのか、人数を把握していただきたい。

### ○澤井座長

他にご意見、ご質問があれば発言願う。

それでは、続いて基本目標②について、事務局より説明願う。

## 【基本目標②：「江別への新しい人の流れをつくる」について事務局説明】

### ○澤井座長

資料3頁のNo.1「大学連携研究事業」、No.2「大学連携学生地域活動支援事業」、No.3「学生地域定着推進大学連携事業」、No.4「～ようこそ！つながる「まち」と「学生」～学生地域自治体連携プロジェクト」の事業の結果、数年後になるかもしれないが、実際に江別市内に就職した学生等がどれくらい増えたという数字が出れば、ぜひ公表していただきたい。

### ○吉川委員

資料4頁のNo.11「えべつシティプロモーション事業（情報発信の仕組みづくり）」とNo.12「えべつシティプロモーション事業（情報発信の人材育成）」に関連して、現在、市のプロモーション担当課において企画し、情報発信していると思うが、今まで以上に江別市を宣伝することに加え、いろいろなところから人が来るように今後も事業を継続していただきたい。また、以前、市内の大学で3分くらいの短いプロモーションビデオを作成していたが、もう少し長めのプロモーションビデオを作成するなど、ぜひ江別市を宣伝するような取組を引き続き計画し、北海道内外の方にもっと江別市を知ってもらえるよう、色々な手段で宣伝していただきたい。

## ○中川座長代理

今の吉川委員の意見と同じ内容となるが、シティプロモートという考え方では大学連携などの江別市特有の良い事業を実施している。ただ、一市民という視点から見ると、市民の方には意外と伝わっていない。そういうところも含めて、江別市は「このような新しい事業を実施している」という、PRが大事だと思う。江別市がどのように大学生と交流をしているか、もっとわかるような方法を考えてみてはどうか。

## ○澤井座長

他にご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

### 【基本目標③ 若い世代の結婚、出産、子育てを支援する】

### 【基本目標④ 時代にあった地域を作り、安全な暮らしと健康を守ると共に地域と地域を連携する】について事務局説明

## ○澤井座長

資料5頁、基本目標④のNo.1「公共交通利用推進対策事業」ですが、公共交通の中でも特に市内バスについては基本目標④だけではなく、基本目標①・②・③のすべての基本目標に関わってくるので、大学を利用してもらい、市内の公共交通を更に充実させてほしいと思います。

## ○龍田委員

「公共交通利用推進対策事業」の事業KPIについての質問ですが、目標値が54万8千人に対し、実績値が55万4千人となっている。この54万8千人というのは、54万8千人増ということなのか、または総合的な数字を54万8千人と設定しているのか。

## ○事務局

54万8千人という目標値の考え方は、輸送人員を増やすというより現状維持を図るということであり、1年間でバスを利用した総体の人数である。この55万4千人という実績値については、平成27年度の江別市全体でバスを利用した延べ人員、総体の人数である。

## ○事務局

補足ですが、市内完結路線の延べ利用者数が平成26年度の実績値において54万8千人でありました。利用者のピークは昭和48年で約250万人、年々減少傾向であり、当面は現状維持をしていかなくは市内バス路線の維持が難しくなっていく。先日行われた地域公共交通活性化協議会において、平成27年度の実績値として延べ

55万4千人であったと報告がありました。

#### ○龍田委員

了。

#### ○中橋委員

資料5頁、基本目標③「男女の出会いの場づくりイベント開催事業」において、目標値30人に対して実績値106名と参加者が増えたということで、我々、農業関係者の中でもイベントを実施しているが、参加者がなかなか集まらないのが現状である。今後、事業内容の見直しを行い、改善していくということであるが、内容をどのように改善していくのか、また、イベントの結果として、マッチングの数字を把握しているのであれば教えていただきたい。

#### ○事務局

このイベントにおいて、7組のカップルが誕生したと聞いております。7組について、そのあと結婚まで至ったかについては、把握できておりません。

昨年度のイベント参加者は106人でしたが、今年度については、一人一人の交流時間を増やすため開催規模を縮小し、先週の土曜日に開催いたしました。参加者については男女各19人ほどと聞いております。

内容については、農業体験、陶芸、流しラーメンをするなど、多様な内容となっております。また焼き物については、完成まで2～3週間かかるので、そのあとの再会イベントなどを実施し、また会うチャンスを設定するという改善をしております。今年度については、10組ほどカップルが誕生したと聞いております。

#### ○中橋委員

了。

#### ○高木委員

イベントの対象者は市内の方だったのかということと、もう一点はイベント開催にあたり、どのようなPRをしたのか、その二点を教えていただきたい。

#### ○事務局

参加者は市内の方を中心に募集しましたが、何名かは市外の方も参加していたと聞いております。PRとしてはチラシを作成し、各関係団体にお声掛けさせていただいたほか、江別市のホームページでも記事を掲載いたしました。

#### ○高木委員

このようなイベントを開催するのであれば、参加する方だけではなく、江別市の取組としても宣伝すると効果的であると思う。例えば、駅にチラシを貼るなど、通勤通学時に見る機会があると良いのではないかと思う。イベントのPRがしっかり行き届いていたのか疑問に思いました。

#### ○事務局

応募の状況について、男女同じ割合になるように募集をかけたのですが、女性のほうが先に定員に達し、なかなか男性が集まらないという現象が起きております。理由としては推測ですが、江別市の場合、結婚適齢期である20代～30代の女性が多く、若い男性は市外へ転出しているということが原因ではないかと考えております。PRにつきましては、男性の応募がいつも少ないので、工夫の余地があると考えております。

#### ○高木委員

了。

#### ○高木委員

資料5頁、基本目標④「リズムエクササイズ推進事業」ですが、この事業については、現在江別市で取り組んでいる事業であると私もいろいろな場面で聞いております。将来的にはインストラクターを養成し、その方たちが地域に出向き、事業を展開していくということによろしいか。

#### ○事務局

「リズムエクササイズ推進事業」ですが、現在はE-リズムという呼び方で普及啓発活動に取り組んでおります。参加人数が一定程度集まれば、市民インストラクターが出向いて指導するというを実施していますし、昨年度については江別、野幌、大麻の各地区で3日間講習会を実施しております。また、先週土曜日には「まるごと江別」というイベントが行われ、イベント会場でE-リズムを来場者に紹介するなど、イベント等を活用した普及啓発活動に取り組んでおります。

#### ○高木委員

了。

#### ○澤井座長

他にございませんでしょうか。

【その他の発言なし】

## 議事（２）

### 【江別版「生涯活躍のまち」構想（案）の検討について事務局説明】

#### ○龍田委員

国がCCRCを推進することで江別市でも、こうしなくてはいけないという考え方に違和感はあるが、それについては大きなお金の流れがありますし、ニーズが合えば素晴らしい効果につながっていくと思いますので、CCRC自体を否定するわけではありません。

しかし、これから使いたいと思う人の意見をどのようにして吸い上げているのか、少し疑問に感じます。そもそもCCRCの考え方が江別市にとって合致するのかなのか、もう少し検討していただきたいと思いますし、江別の遊休地をこのような形で活用できないかということからCCRCを考えているのならば、本末転倒だと思います。

まずは高齢者の方々が次の住まいを望んでいるのかというニーズを掘り起こしてから、CCRCを検討した方が良いと思います。首都圏に住んでいる方の考え方と、古き田園地帯に住んでいる方の考え方というのは、国が一色単に総括りできるものではありませんし、今後、有識者会議等において掘り下げていただく機会があれば、もう少しニーズにあったものになるのではないかと思いますので、今後の会議の進捗に期待させていただきたい。

#### ○事務局

了。

#### ○澤井座長

他にございませんでしょうか。

【その他の質疑なし】

## 6 その他

【次回以降の有識者会議の日程について】（事務局）

## 7 閉会